

風光明媚な景色を味わい、瀋陽の雰囲気を楽しむ

1 自治体名：中国遼寧省

2 発表者名：李 煜桐 (Li Yutong) (瀋陽市第二高校1年生)

3 活動状況

(1) 渾河 (Hun River)水質の測定

毎年9月に、社会団体のメンバーは渾河長春 (Changchun)橋から出発し、岸に沿って歩きながら河川水の観察を行う。王家湾橡胶 (Wangjiawan Xiangjiao)ダムに着いたら、渾河の水質、汚染状況と pH 値などについて測定し、また、前年度のデータと比較する。



(2) 大溪地 (Daxidi)湿地の観察活動

毎年5月に、全校2年生は北校区の近くにある大溪地湿地公園に行き、“春・尋”というテーマの研究学習活動を行う。生徒たちは自分の興味を持つ課題について、調査・研究し、最後は報告書を取りまとめる。



多くの課題の中、特に“大溪地公園における人気の観光景観とその理由に関する探究”と“大溪地湿地公園における環境問題に関する観察と分析”などの課題は深く掘り下げられて研究されていた。



2014年8月21日に、高2の生徒は環境保全研究会に率いられて、瀋北 (Shenbei) 新区蒲河 (Pu River) 沿岸で蒲河の種について調査研究し、2つのグループに分けて、それぞれ、動物と植物について深く探究していた。最終的に報告書を作成し、第2高校の公式サイトと「環境教育」という雑誌で発表した。



環境保全研究会のメンバーは定期的に近くの水域や公園に行き、沿岸のごみを収集し、処分する。統計によると、飲料瓶・ペットボトルがごみ全体の74%を占める。回収した利用可能なごみを洗浄し、売り、義援金として現地の環境保全機構に寄付し、造林活動に使う。

(3) 湿地生態の効果・利益に関する基調講演

2017年9月4日に、環境保全研究会会長馮典坤 (Feng Diankun)さんは研究会の夏季活動について取りまとめ、また、湿地の考察結果を公表した。湿地生態環境の効果・利益および保護措置について紹介し、生徒たちの湿地保護意識の向上につながった。



(4) キャンパス知識・科学の普及

2015年7月に、環境保全研究会はキャンパス内の鳥の巣の下で、環境保全に関する知識について、景品付きのクイズ大会を行い、多くの生徒の注目と参加を得られた。クイズは主に、湿地保護、世界地球デー、環境汚染などに関する内容で、生徒たちは楽しみながら環境保全に関する知識を学び、環境保全の意識を高めることができた。



(5) 環境保全に関する本の展示

2018年5月に、環境保全研究会のメンバーは大溪地生態湿地を見学した後、湿地の生態環境に関する本をデザインし作成した。また、大溪地生態湿地の現状、生態環境の問題およびその解決策について、意見と見解を交換した。その本は内容が豊富で、絵画も美しく、好評を得た。



4 発表要点

瀋陽第二高校の環境保全研究会は1986年に設立し、30年来、環境保全に最大限の努力を払い、全校ひいては瀋陽市で環境教育の道しるべになる一心で頑張ってきた。メンバーは環境問題に着目・探究し、学校側の支援をもらい、また、学校側と協力しながら定期的に環境活動・イベントを実施し、環境教育と宣伝にも力を入れてきた。さらに、大溪地の現地調査をキャンパスの通常活動

に組み入れ、より多くの生徒に環境保全活動にかかわる機会を与える。夏季の渾河水質測定、蒲河の生物活動探究、河岸のごみ処分などの活動を通じて、関連した教養と知識を身につけ、今後一層環境活動を実施することに貴重な経験を積むことができた。また、環境保全研究会は絶えず外部との連携を強化し、指導者の張孟華 (Zhang Menghua) 先生、左明秀 (Zuo Mingxiu) 先生は積極的に国際環境保全教育実践交流活動に参加し、中国の環境保全教育の現状を紹介している。18 期副会長の王語潇 (Wang Yuxiao) さんは国際会議に参加し、中国の高校生が環境問題についてどのように考え、かかわっているのかを国際社会に見せていた。